

高精細コンテンツの配信やスケジューリングを一元管理し、社内の意識統一やコミュニケーション円滑化を実現。社外プレゼンテーションにも活用しスムーズな商談へつなげる

お客様のニーズ・課題

社内の意識統一、情報共有、コミュニケーションの円滑化を図るため、映像を使った情報配信を行いたい。過去の試みを踏まえ、より効果的なシステムを必要としていた。



導入効果

来客向け、社内向けにコンテンツを区分したり、時間帯に応じたコンテンツ配信や音声有無など、スケジュール管理が容易になった。来客へのプレゼンテーションでも活用中。



株式会社オーリッド様

2001年9月に設立したオーリッド様は、大手電機メーカー系のシステム会社でOCR技術の開発を手がけていた三浦社長が、データ入力市場の将来性に目をつけて起業しました。以来、インターネットを活用した独自のデータ入力アウトソーシングサービス事業「オーリッドソリューション」を展開しています。世界中の先進都市部から事務作業をアウトソーシングして未就労人口を多く抱えるエリアと結びつけ、データを分割することで絶対に情報漏洩しない環境を構築するなど、独自の手法で急成長を遂げています。

導入背景

国内外拠点の意識統一を図り、コミュニケーションを円滑にしたい。

当社は、大分県別府市に本社を置き、関連会社も含めると、東京、大阪、中国、ベトナム、シンガポールなどに複数の拠点があります。電話や出張で頻繁に拠点間を行き来するスタッフはいいのですが、一般スタッフは多拠点と接点を持つ機会がありません。いかに社内の意識統一や情報共有を実現するか、コミュニケーションを図っていくかなどが課題となっていました。当社は業務関係のメールのやりとりが非常に多いため、コミュニケーションツールとしてメールを利用しても埋もれてしまう可能性が高いのです。中国のオフショアセンター開設時には、拠点内各所にモニターを設置し、社内向けコンテンツ映像を流すという試みも行ったのですが、現地にコンテンツのDVDを郵送するため情報にタイムラグが生じてしまうこと、DVDを取り替えるなどの手間がかかること、モニターの設置場所によって違うコンテンツが流れ体系的な運用が難しいことなどから、次第に活用しなくなっていました。それでも、映像を使った情報配信の方がメールや社内ブログなどわざわざ見にいかねばならないものよりも有効であると考え、新しいシステムを模索していました。

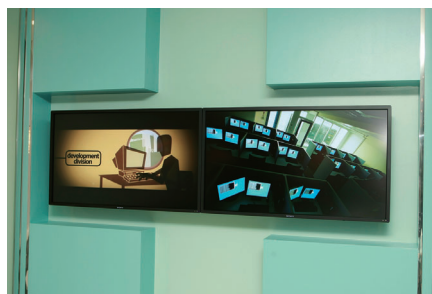


大分本社の1階ラウンジには、来客向けに創業ストーリーなどのプロモーション映像を配信。

選定理由

操作・スケジュールを一元管理し、遠隔地へのコンテンツ配信を実現。

もともと当社では、ソニー製ビデオ会議システムを各拠点に導入して遠隔会議を行っています。そのためソニーのショールームを訪れる機会があり、そこでデジタルサイネージを知りました。デジタルサイネージの本来の用途は電子広告なのだと思いますが、ネットワークを経由して瞬時に遠隔地にコンテンツを発信できること、再生期間や時間帯などスケジュール設定が容易に行えること、コンテンツの割り込み再生もできること、それらの操作をすべて一元管理できることなどから、当社が求めていた社内向け情報配信ツールとして活用できるのではないかと考えました。当社はインターネットを活用したデータエントリー業務を展開していることから、拠点間にイントラネットを敷設しており、ネットワークでコンテンツを送受信することが可能な環境も整っていました。デジタルサイネージによって、当社が望んでいた映像による円滑な社内向け情報発信が実現できるだろうと判断し、大分本社の新社屋竣工にあわせて、デジタルサイネージプレーヤーとフルHD液晶ディスプレイを導入しました。



3階の休憩コーナーには社内向けコンテンツを配信。時間帯により音声の調整なども遠隔管理する。

導入効果

来客・社内別に配信コンテンツを管理。音声コントロールも容易。

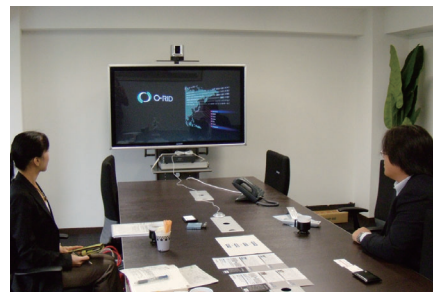
2009年3月に、大分本社の新社屋にデジタルサイネージプレーヤーVSP-NS7を6式導入しました。来客向けとして1階ラウンジ正面に42V型フルHD液晶ディスプレイFWD-S42H1を2面設置し、社内向けには3階の休憩コーナーにFWD-S42H1を2面、別館休憩コーナーに52V型フルHD液晶ディスプレイGXD-L52H1を1面と26型ディスプレイを2面、コンテンツ制作・管理を行うデザイン部にプレビュー用として32V型液晶ディスプレイFWD-32LX2Fを1面設置しています。さらに、東京オフィスの来客用会議室にもVSP-NS7を1式導入し、GXD-L52H1をビデオ会議システムとの共用ディスプレイとして使用しています。

来客向けには、高精細映像による自社プロモーションとして、創業ストーリーや事業コンセプト、業務解説、オフショアセンターなどの動画やCG映像、静止画像を配信しています。もともとお客様向けに制作していたコンテンツの2次利用で、その一部は当社のWebサイトでもご覧いただけます。東京オフィスの会議室では、お客様との商談前に同様のコンテンツをご覧いただきます。これまではパワーポイントで制作した資料をディスプレイに表示したり、DVDに収録した映像を流すことで、当社のおおよその事業内容を理解していただきました。それから本題に入る方が、商談がスムーズに進むからです。デジタルサイネージを利用するようになってから、大分本社のデザイン部へ依頼してから、すぐに最新コンテンツが配信・表示されるため、この前段の運びがさらにスマートになりました。

社内向けには、社内風景や過去に行われた懇親パーティの様子、CG制作物などのほか、新入社員紹介や古参スタッフへのインタビュー映像などを流しています。就業中は音声を消して静止画などのイメージ映像にしたり、休憩時間になったら音声を伴う動画にするなど、コントロールも容易です。昼休みなどに自然にスタッフの目に留まるため、社内からの反響が大きいですね。コンテンツはすべて当社のデザイン部が制作していますが、デジタルサイネージの導入をきっかけに、社内向けコンテンツが充実してきました。これまで限られていた発表の場が増えたことで、デザイン部もやりがいがあるようです。週に1回の頻度で、新しいコンテンツに変更しています。新入社員紹介やインタビュー映像などで各人の人となり分かり、社内のコミュニケーションも円滑になりました。



別館休憩コーナー。お昼休みに配信したコンテンツが自然と目に留まり、社内からの反響が大きい。



東京オフィスでは、商談前の企業・業務説明にデジタルサイネージを活用。コンテンツは大分本社のデザイン部から配信する。

今後の展望

社内報・社内掲示板としての活用や、海外拠点導入の可能性もあり。

導入してからまだ数ヶ月ですので、これからが本格運用だと思っています。社内向けには、来客予定や健康診断などの案内、業績報告など、社内報や掲示板の活用もできるのではないのでしょうか。デジタルサイネージを海外拠点にも導入すれば、お互いの様子の把握や情報共有が実現し、より垣根がなくなるように感じています。そのために役に立つシステムだと期待しています。

パブリックディスプレイの商品情報をご覧ください。

sony.jp/public-display/

ソニーマーケティング株式会社 / 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

商品に関するお問い合わせは

業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333

●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 0466-31-2588

●FAX 0120-333-389

●受付時間 9:00～18:00 (土・日・祝日、および年末年始は除く)

2009年10月現在